

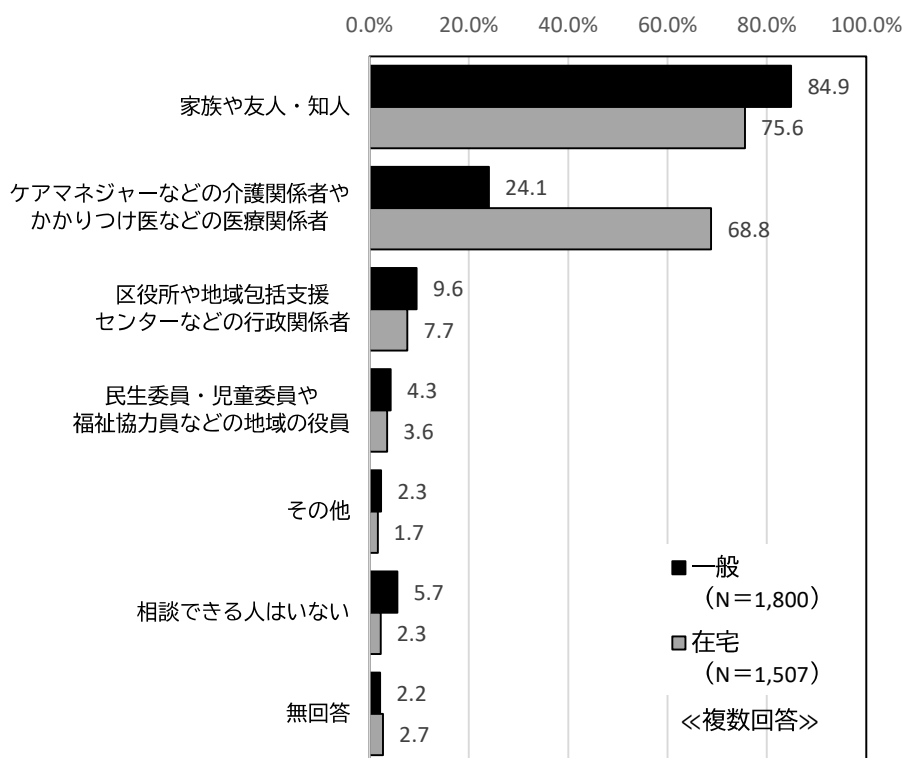
7. 地域との関わり・支援の状況

(1) 相談できる人

対象：『一般高齢者』『在宅高齢者』

介護や病気などで困ったときに相談できる人について尋ねたところ、「家族や友人・知人」が最も多く、一般高齢者で84.9%、在宅高齢者で75.6%となっている。

また在宅高齢者では、「ケアマネジャーなどの介護関係者やかかりつけ医などの医療関係者」が68.8%と一般高齢者の24.1%に比べて大幅に多くなっている。

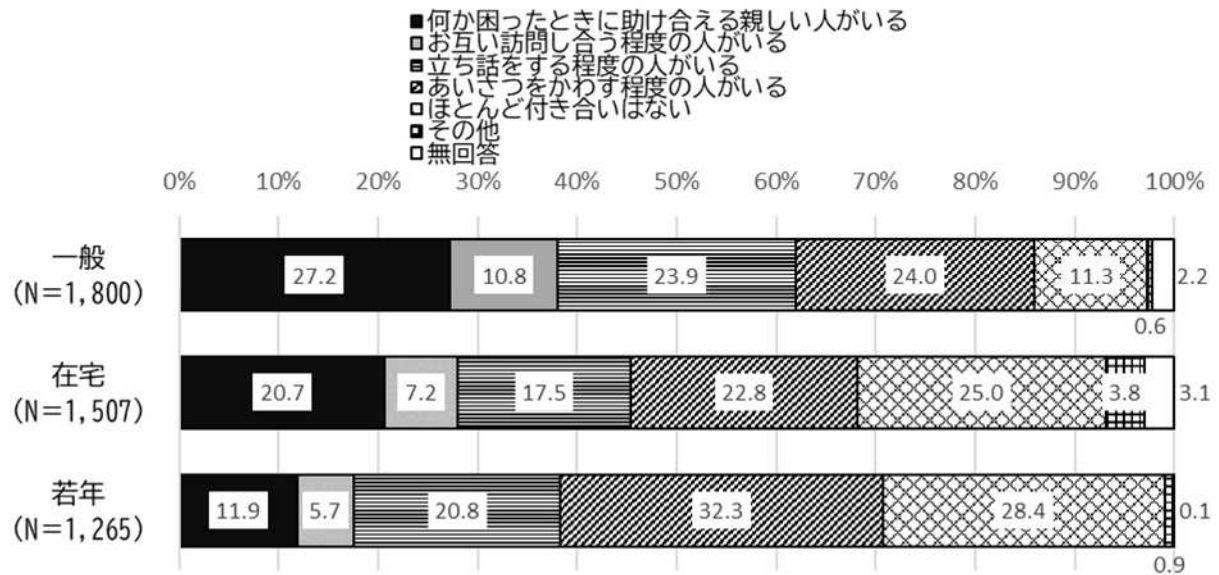


【令和4年度】	
一般	87.4% 「家族や友人・知人」 23.0% 「ケアマネジャーなどの介護関係者やかかりつけ医などの医療関係者」
在宅	75.0% 「家族や友人・知人」 67.2% 「ケアマネジャーなどの介護関係者やかかりつけ医などの医療関係者」
【令和元年度】	
一般	87.0% 「家族や友人・知人」 26.7% 「ケアマネジャーなどの介護関係者やかかりつけ医などの医療関係者」
在宅	73.0% 「家族や友人・知人」 62.1% 「ケアマネジャーなどの介護関係者やかかりつけ医などの医療関係者」

(2) 近所づきあい

対象：『一般高齢者』『在宅高齢者』『若年者』

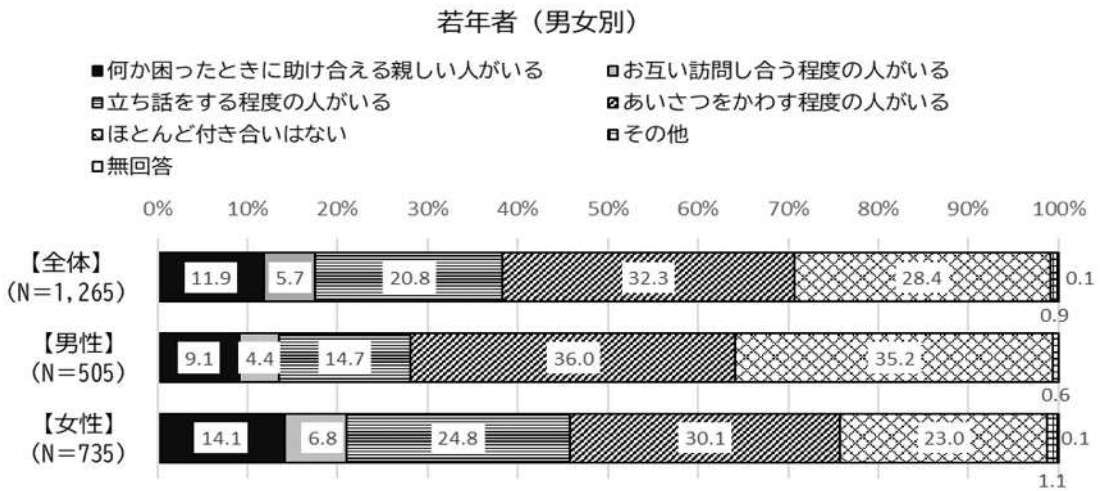
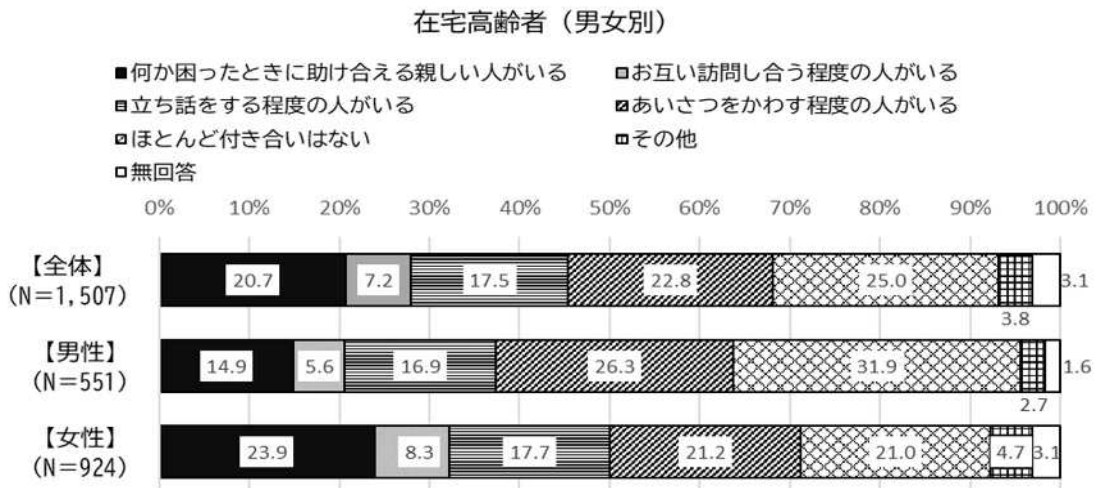
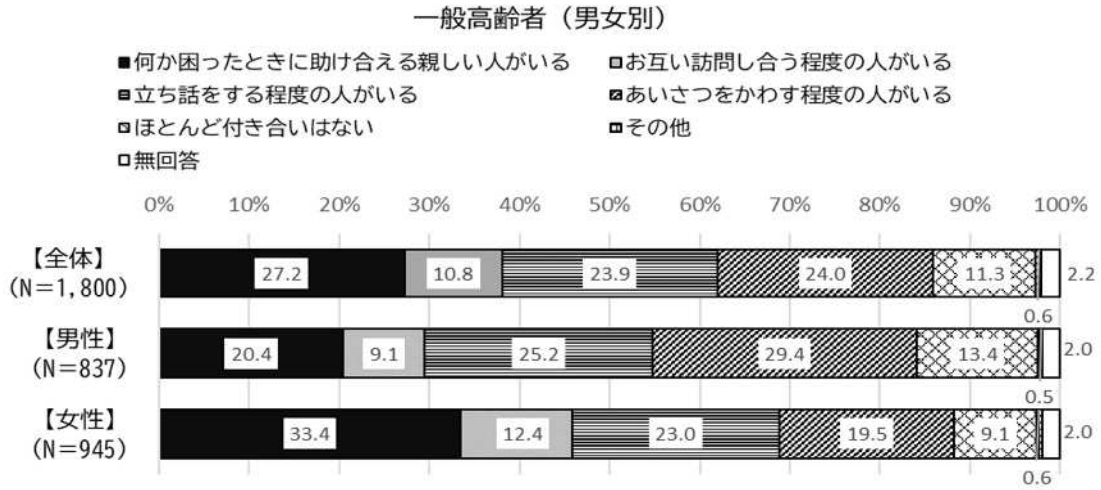
近所で親しく付き合っている人がいるか尋ねたところ、一般高齢者では「何か困ったときに助け合える親しい人がいる」が27.2%と最も多く、在宅高齢者では「ほとんど付き合いはない」が25.0%と最も多く、若年者では「あいさつをかわす程度の人がある」が32.3%と最も多くなっている。



【令和4年度】			
「何か困ったときに助け合える親しい人がいる」	一般：22.4%	在宅：17.3%	若年：11.6%
「お互い訪問し合う程度の人がある」	一般：10.7%	在宅：7.6%	若年：5.1%
「立ち話をする程度の人がある」	一般：23.6%	在宅：14.8%	若年：22.1%
「あいさつをかわす程度の人がある」	一般：19.5%	在宅：20.5%	若年：33.4%
「ほとんど付き合いはない」	一般：12.5%	在宅：23.7%	若年：26.5%
【令和元年度】			
「何か困ったときに助け合える親しい人がいる」	一般：30.3%	在宅：25.1%	若年：13.8%
「お互い訪問し合う程度の人がある」	一般：10.3%	在宅：10.8%	若年：8.3%
「立ち話をする程度の人がある」	一般：30.1%	在宅：19.8%	若年：26.3%
「あいさつをかわす程度の人がある」	一般：18.0%	在宅：19.0%	若年：32.9%
「ほとんど付き合いはない」	一般：8.7%	在宅：16.1%	若年：17.5%

【属性別特徴】

男女別にみると、一般高齢者、在宅高齢者、若年者のいずれにおいても「何か困ったときに助け合える親しい人がいる」の割合は女性の方が男性よりも多くなっている。



8. 終活

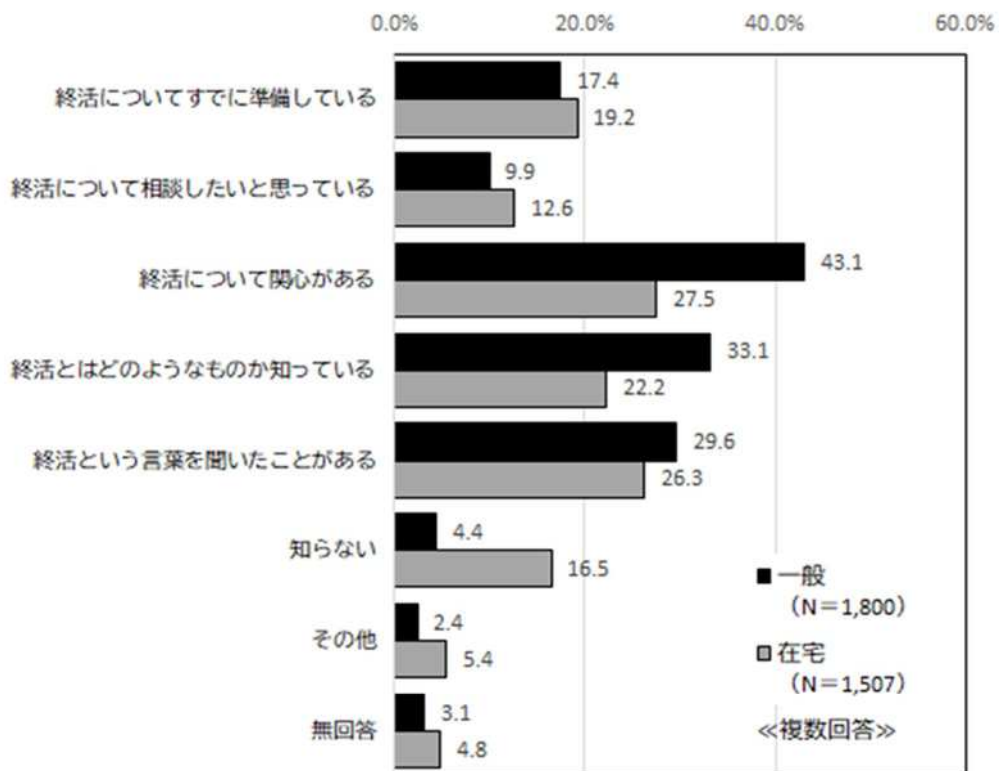
(1) 終活について

対象：『一般高齢者』『在宅高齢者』

終活について尋ねたところ、一般高齢者では「終活について関心がある」が43.1%と最も多く、次いで「終活とはどのようなものか知っている」が33.1%、「終活という言葉聞いたことがある」が29.6%となっている。

在宅高齢者では「終活について関心がある」27.5%と最も多く、次いで「終活という言葉聞いたことがある」が26.3%、「終活とはどのようなものか知っている」が22.2%となっている。

	一般高齢者	在宅高齢者
1位	終活について関心がある (43.1%)	終活について関心がある (27.5%)
2位	終活とはどのようなものか知っている (33.1%)	終活という言葉聞いたことがある (26.3%)
3位	終活という言葉聞いたことがある (29.6%)	終活とはどのようなものか知っている (22.2%)

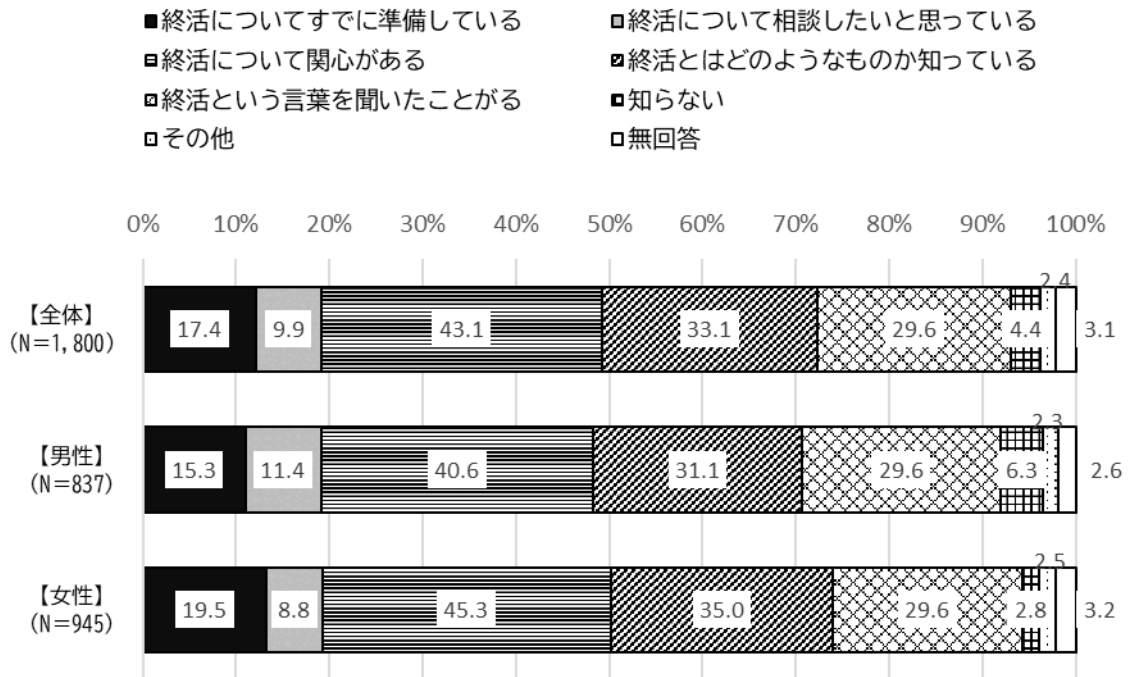


【令和4年度】

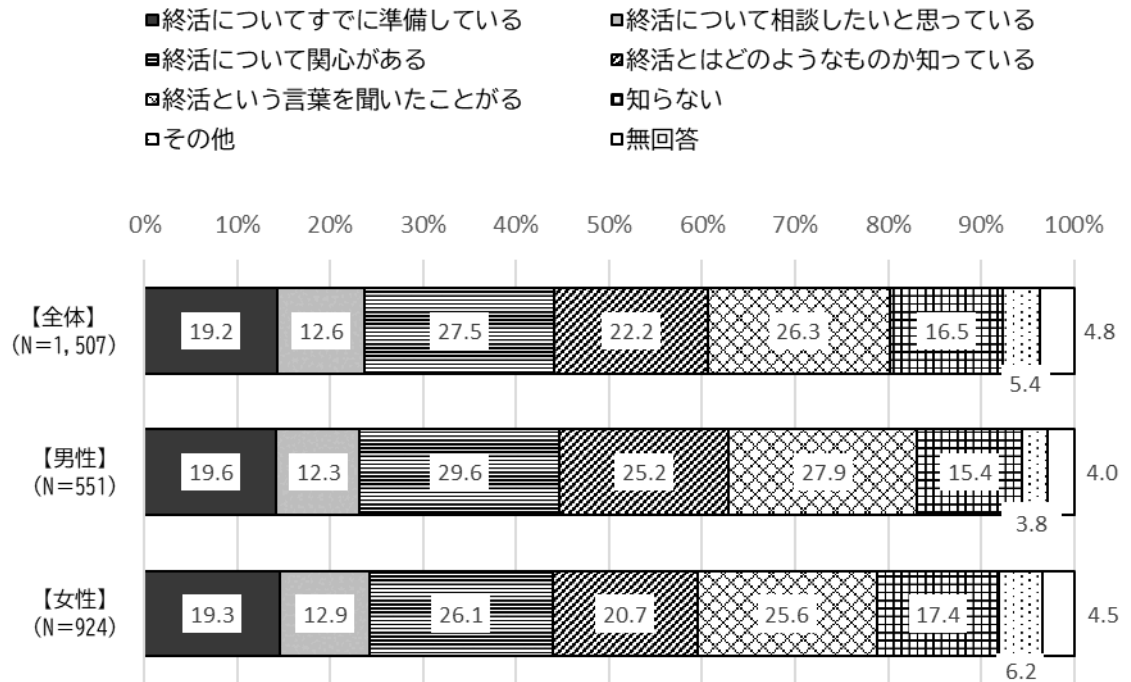
一般：42.9%「終活について関心がある」
 39.6%「終活とはどのようなものか知っている」
 29.3%「終活という言葉聞いたことがある」

在宅：27.3%「終活とはどのようなものか知っている」
 26.4%「終活について関心がある」
 26.3%「終活という言葉聞いたことがある」

一般高齢者（性別）



在宅高齢者（性別）



(2) 終活の準備にあたっての不安

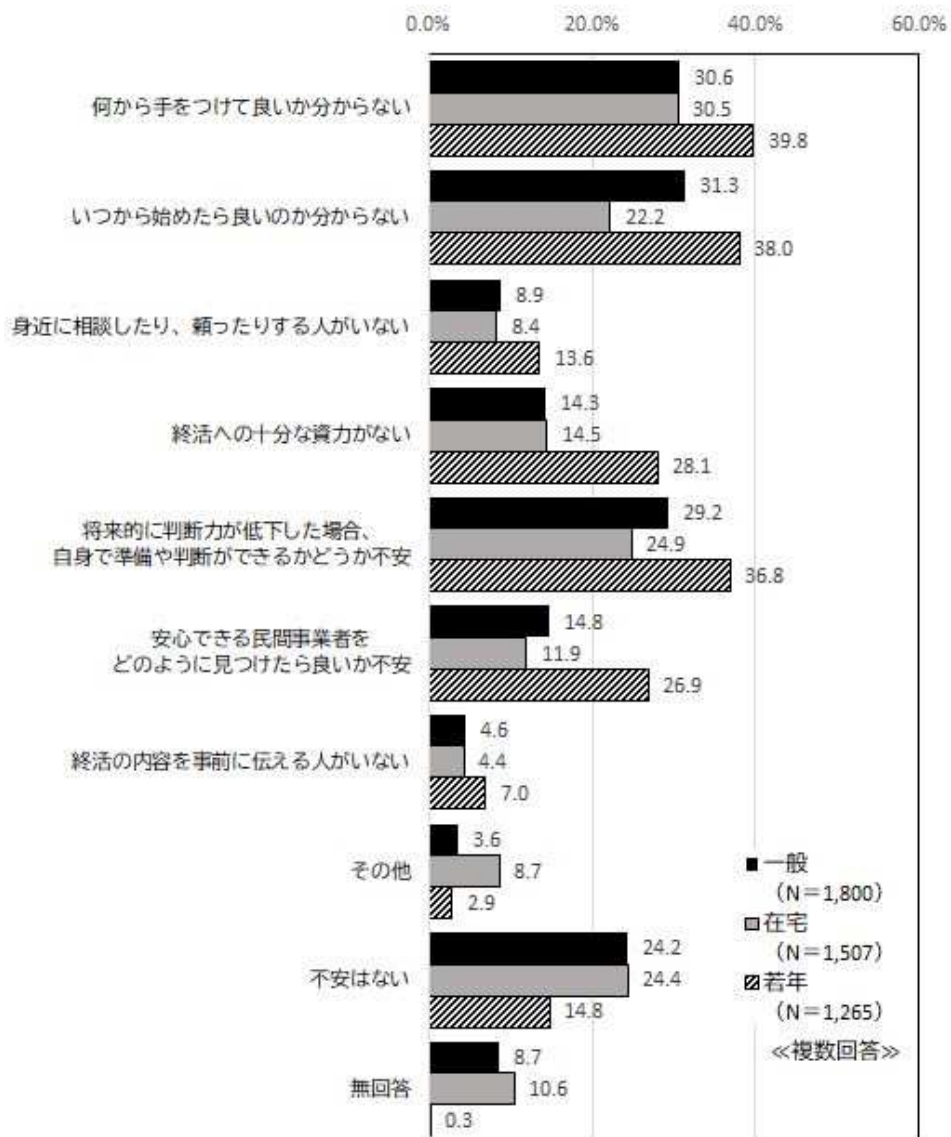
対象：『一般高齢者』『在宅高齢者』『若年者』

終活の準備にあたって、不安に思っていることを尋ねたところ、一般高齢者では「いつから始めたら良いのか分からない」が31.3%で最も多く、次いで「何から手をつけて良いか分からない」が30.6%、「将来的に判断力が低下した場合、自身で準備や判断ができるかどうか不安」が29.2%となっている。

在宅高齢者では「何から手をつけて良いか分からない」が30.5%で最も多く、次いで「将来的に判断力が低下した場合、自身で準備や判断ができるかどうか不安」が24.9%、「不安はない」は24.4%となっている。

若年者では「何から手をつけて良いか分からない」が39.8%で最も多く、次いで「いつから始めたら良いのか分からない」が38.0%、「将来的に判断力が低下した場合、自身で準備や判断ができるかどうか不安」が36.8%となっている。

	一般高齢者	在宅高齢者	若年者
1位	いつから始めたら良いのか分からない (31.3%)	何から手をつけて良いか分からない (30.5%)	何から手をつけて良いか分からない (39.8%)
2位	何から手をつけて良いか分からない (30.6%)	将来的に判断力が低下した場合、 自身で準備や判断ができるかどうか不安 (24.9%)	いつから始めたら良いのか分からない (38.0%)
3位	将来的に判断力が低下した場合、 自身で準備や判断ができるかどうか不安 (29.2%)	不安はない (24.4%)	将来的に判断力が低下した場合、 自身で準備や判断ができるかどうか不安 (36.8%)

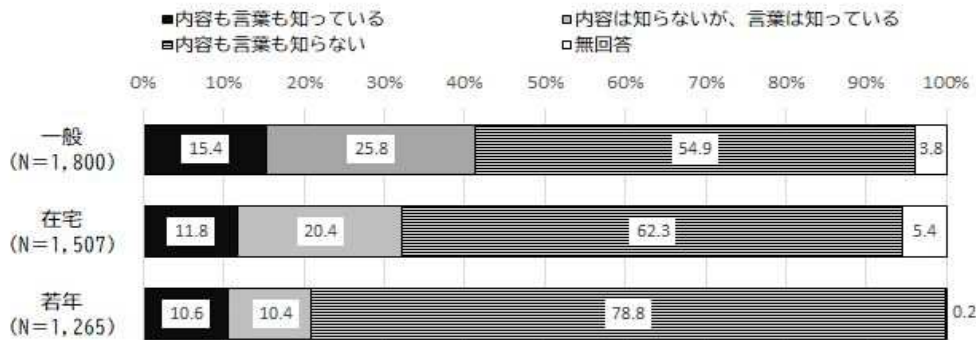


9. 認知症

(1) 認知症施策推進基本計画(令和6年12月閣議決定)の「新しい認知症観」の認知度

対象：『一般高齢者』『在宅高齢者』『若年者』

「新しい認知症観」を知っているか尋ねたところ、一般高齢者、在宅高齢者、若年者いずれも「内容も言葉も知らない」が最も多く、一般高齢者で54.9%、在宅高齢者で62.3%、若年者で78.8%となっている。



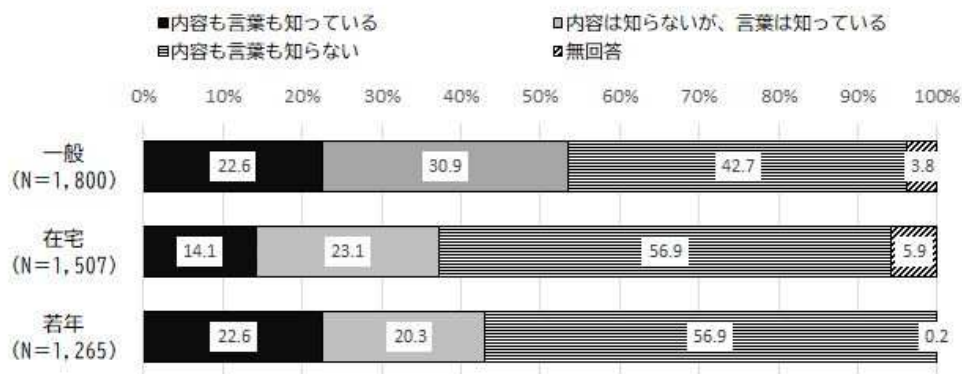
☆「新しい認知症観」とは☆

認知症になったら何もできなくなるのではなく、認知症になってからも、一人一人が個人としてできること・やりたいことがあり、住み慣れた地域で仲間等とつながりながら、希望を持って自分らしく暮らし続けることができるという考え方。

(2) 「MC I (軽度認知障害)」の認知度

対象：『一般高齢者』『在宅高齢者』『若年者』

「MC I (軽度認知障害)」を知っているか尋ねたところ、一般高齢者、在宅高齢者、若年者いずれも「内容も言葉も知らない」が最も多く、一般高齢者で42.7%、在宅高齢者及び若年者で56.9%となっている。



☆「MC I (軽度認知障害)」とは☆

ご本人や家族に認知機能低下の自覚があるものの日常生活は問題なく送ることができる状態 (健常な状態と認知症の中間の状態)。

(3) 認知症と聞いて最初に思うこと

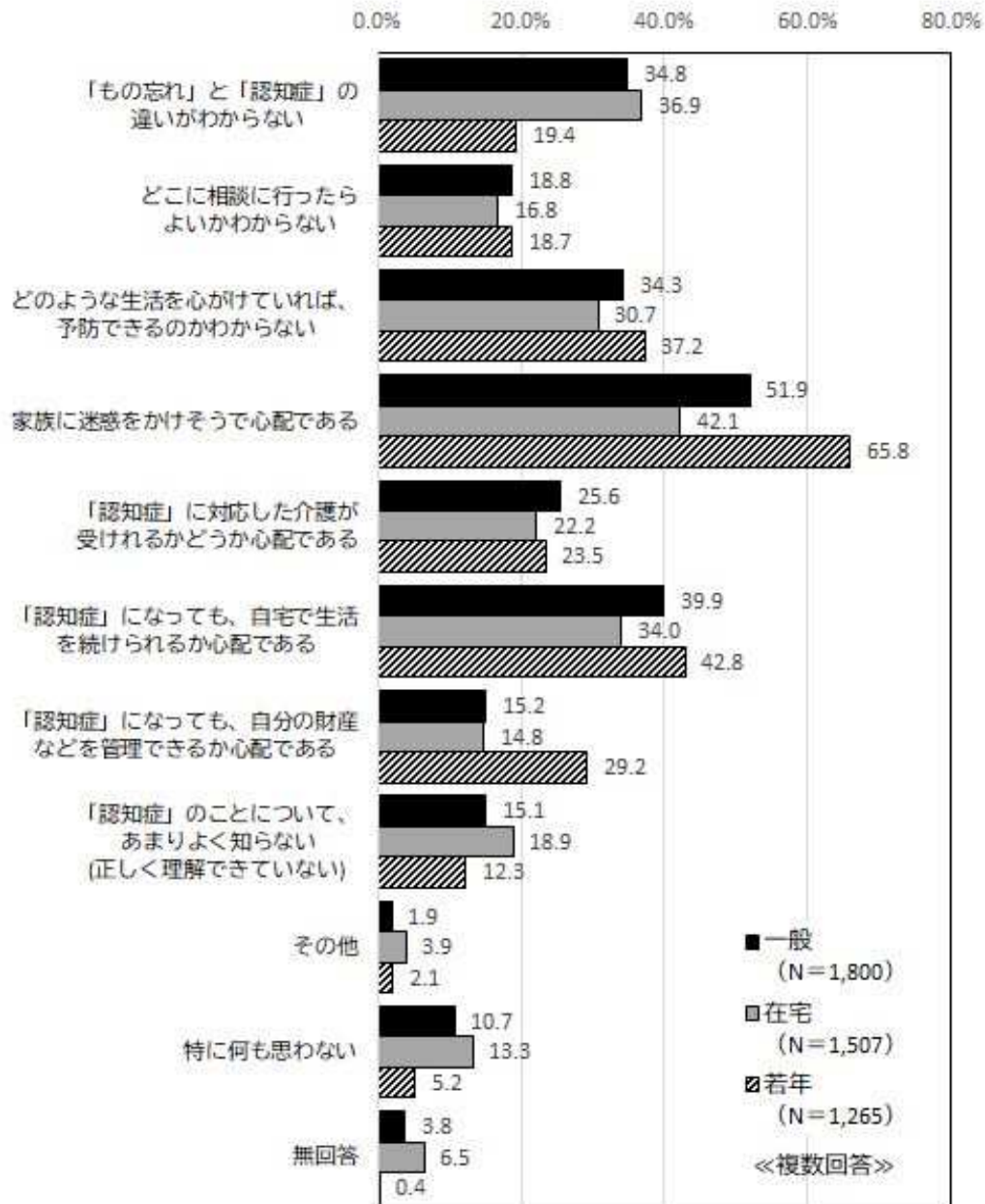
対象：『一般高齢者』『在宅高齢者』『若年者』

認知症と聞いて、最初に思うことはどのようなことが尋ねたところ、「家族に迷惑をかけそうで心配である」が最も多く、一般高齢者で51.9%、在宅高齢者で42.1%、若年者で65.8%となっている。次いで一般高齢者、若年者は「『認知症』になっても、自宅で生活を続けられるか心配である」、在宅高齢者は「『もの忘れ』と『認知症』の違いがわからない」の割合が多くなっている。

	一般高齢者	在宅高齢者	若年者
1位	家族に迷惑をかけそうで心配である (51.9%)	家族に迷惑をかけそうで心配である (42.1%)	家族に迷惑をかけそうで心配である (65.8%)
2位	「認知症」になっても、自宅で生活を続けられるか心配である (39.9%)	「もの忘れ」と「認知症」の違いがわからない (36.9%)	「認知症」になっても、自宅で生活を続けられるか心配である (42.8%)
3位	「もの忘れ」と「認知症」の違いがわからない (34.8%)	「認知症」になっても、自宅で生活を続けられるか心配である (34.0%)	どのような生活を心がけていれば、予防できるのかわからない (37.2%)

【令和4年度】

	一般高齢者	在宅高齢者	若年者
1位	家族に迷惑をかけそうで心配である (53.9%)	家族に迷惑をかけそうで心配である (45.9%)	家族に迷惑をかけそうで心配である (70.3%)
2位	「認知症」になっても、自宅で生活を続けられるか心配である (42.2%)	「認知症」になっても、自宅で生活を続けられるか心配である (35.0%)	「認知症」になっても、自宅で生活を続けられるか心配である (43.9%)
3位	どのような生活を心がけていれば、予防できるのかわからない (31.6%)	「もの忘れ」と「認知症」の違いがわからない (34.1%)	どのような生活を心がけていれば、予防できるのかわからない (38.2%)



(4) 家族が認知症になった場合、または認知症のご家族がいる方の心配だと思う(感じる)こと

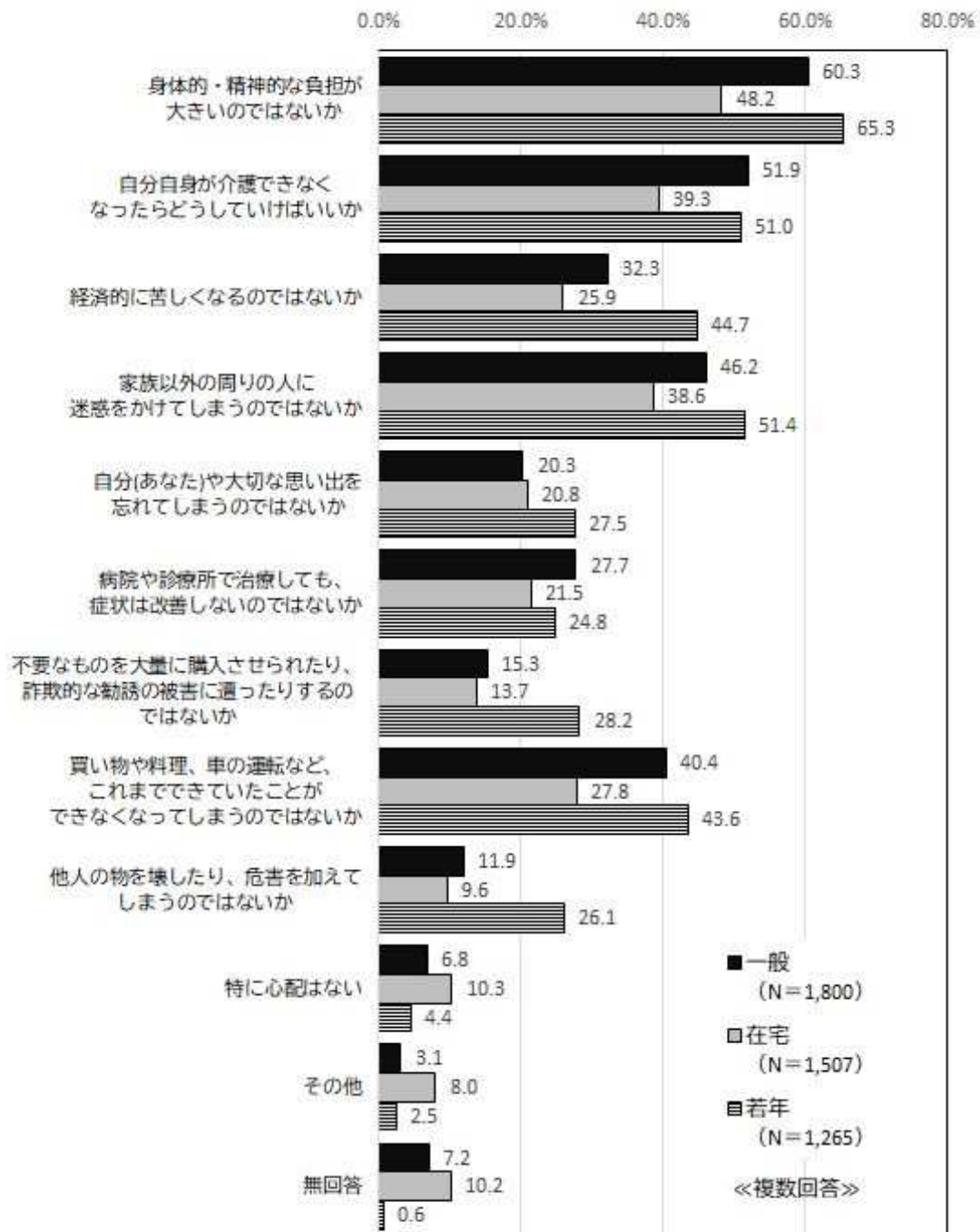
対象：『一般高齢者』『在宅高齢者』『若年者』

家族が認知症になった場合や、現在、認知症の家族がいる方はどのようなことを心配だと思う(感じる)か尋ねたところ、「身体的・精神的な負担が大きいのではないか」が最も多く、一般高齢者で60.3%、在宅高齢者で48.2%、若年者で65.3%となっている。次いで一般高齢者、在宅高齢者は「自分自身が介護できなくなったらどうしてあげばいいか」、若年者では「家族以外の周りの人に迷惑をかけてしまうのではないか」の割合が多くなっている。

	一般高齢者	在宅高齢者	若年者
1位	身体的・精神的な負担が大きいのではないか(60.3%)	身体的・精神的な負担が大きいのではないか(48.2%)	身体的・精神的な負担が大きいのではないか(65.3%)
2位	自分自身が介護できなくなったらどうしてあげばいいか(51.9%)	自分自身が介護できなくなったらどうしてあげばいいか(39.3%)	家族以外の周りの人に迷惑をかけてしまうのではないか(51.4%)
3位	家族以外の周りの人に迷惑をかけてしまうのではないか(46.2%)	家族以外の周りの人に迷惑をかけてしまうのではないか(38.6%)	自分自身が介護できなくなったらどうしてあげばいいか(51.0%)

【令和4年度】

	一般高齢者	在宅高齢者	若年者
1位	身体的・精神的な負担が大きいのではないか(60.7%)	身体的・精神的な負担が大きいのではないか(49.3%)	身体的・精神的な負担が大きいのではないか(68.6%)
2位	自分自身が介護できなくなったらどうしてあげばいいか(53.2%)	家族以外の周りの人に迷惑をかけてしまうのではないか(43.5%)	家族以外の周りの人に迷惑をかけてしまうのではないか(58.1%)
3位	家族以外の周りの人に迷惑をかけてしまうのではないか(52.8%)	自分自身が介護できなくなったらどうしてあげばいいか(41.7%)	自分自身が介護できなくなったらどうしてあげばいいか(56.5%)



(5) 認知症に関して市が力を入れるべき取組

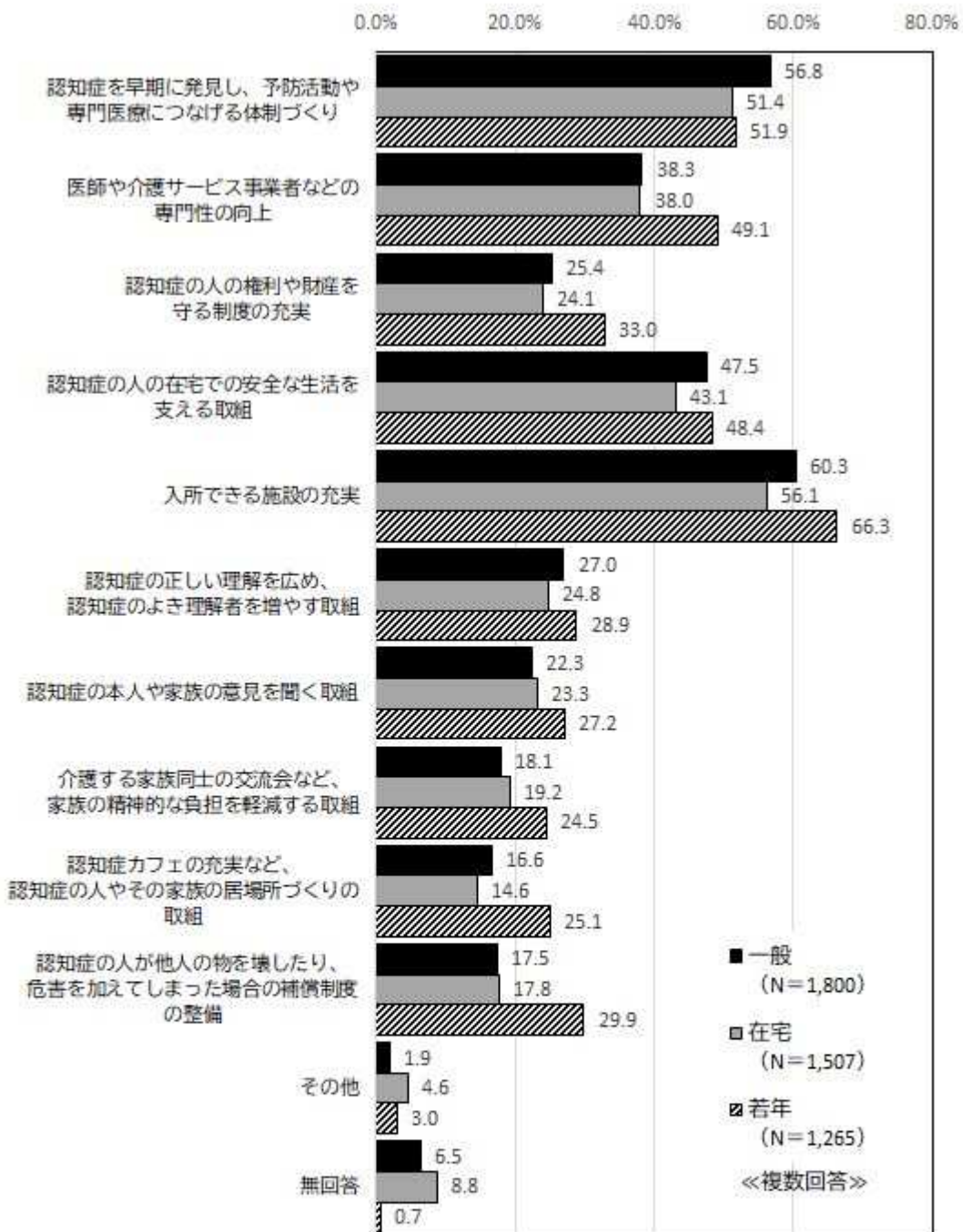
対象：『一般高齢者』『在宅高齢者』『若年者』

認知症に関して市が力を入れていくべき取組については、一般高齢者、在宅高齢者、若年者いずれも「入所できる施設の充実」が最も多く、一般高齢者で60.3%、在宅高齢者で56.1%、若年者で66.3%となっている。次いで「認知症を早期に発見し、予防活動や専門医療につなげる体制づくり」が、一般高齢者で56.8%、在宅高齢者で51.4%、若年者で51.9%となっている。

	一般高齢者	在宅高齢者	若年者
1位	入所できる施設の充実 (60.3%)	入所できる施設の充実 (56.1%)	入所できる施設の充実 (66.3%)
2位	認知症を早期に発見し、予防活動や専門医療につなげる体制づくり (56.8%)	認知症を早期に発見し、予防活動や専門医療につなげる体制づくり (51.4%)	認知症を早期に発見し、予防活動や専門医療につなげる体制づくり (51.9%)
3位	認知症の人の在宅での安全な生活を支える取組 (47.5%)	認知症の人の在宅での安全な生活を支える取組 (43.1%)	医療や介護サービス事業者などの専門性の向上 (49.1%)

【令和4年度】

	一般高齢者	在宅高齢者	若年者
1位	入所できる施設の充実 (63.2%)	入所できる施設の充実 (56.3%)	入所できる施設の充実 (69.2%)
2位	認知症を早期に発見し、予防活動や専門医療につなげる体制づくり (62.4%)	認知症を早期に発見し、予防活動や専門医療につなげる体制づくり (54.9%)	認知症を早期に発見し、予防活動や専門医療につなげる体制づくり (57.4%)
3位	認知症の人の在宅での安全な生活を支える取組 (51.4%)	認知症の人の在宅での安全な生活を支える取組 (42.7%)	医療や介護サービス事業者などの専門性の向上 (52.0%)

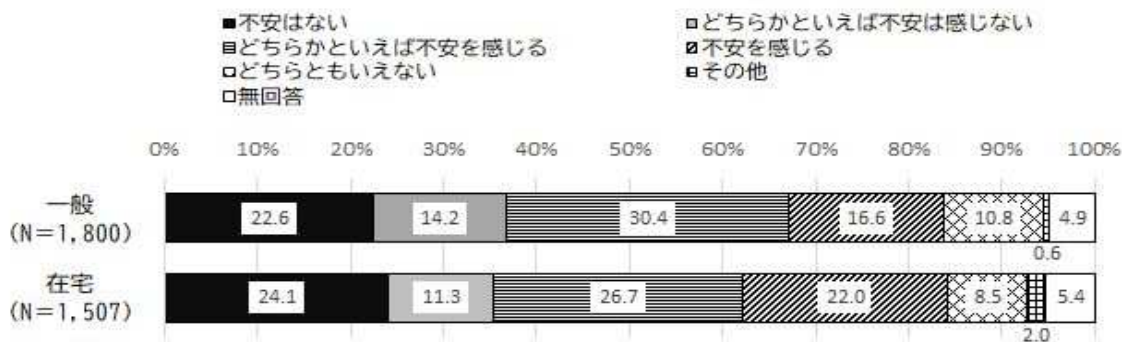


10. 虐待・権利擁護

(1) 高齢者の権利侵害に対する不安

対象：『一般高齢者』『在宅高齢者』

虐待や財産をねらった詐欺など高齢者の権利を侵害するものに対する不安があるか尋ねたところ、「どちらかといえば不安を感じる」が最も多く、一般高齢者で30.4%、在宅高齢者で26.7%となっている。次いで「不安はない」が一般高齢者で22.6%、在宅高齢者で24.1%となっている。



「不安はない」+「どちらかといえば不安を感じない」の合計
 【令和4年度】一般：40.9% 在宅：37.4%
 【令和7年度】一般：36.8% 在宅：35.4%

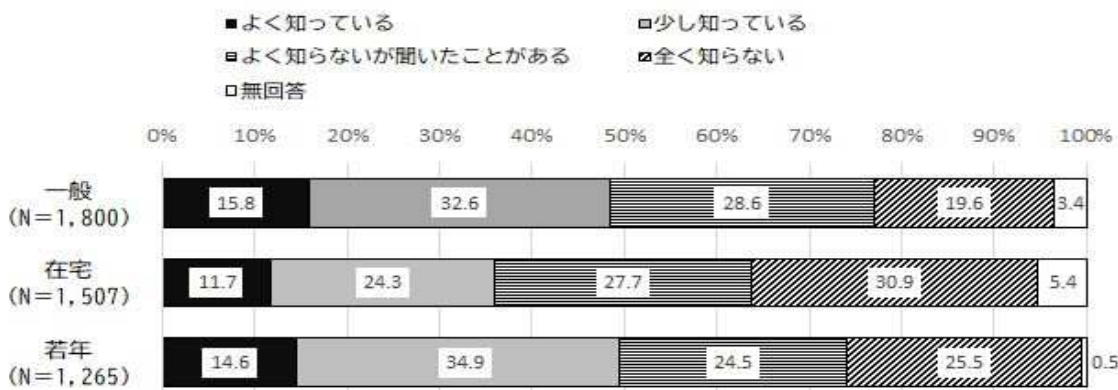
「不安を感じる」+「どちらかといえば不安を感じる」の合計
 【令和4年度】一般：42.3% 在宅：41.9%
 【令和7年度】一般：47.0% 在宅：48.7%

(2) 成年後見制度の認知度

対象：『一般高齢者』『在宅高齢者』『若年者』

成年後見制度を知っているか尋ねたところ、一般高齢者と若年者では「少し知っている」が最も多く、一般高齢者で32.6%、若年者で34.9%となっている。

在宅高齢者では、「全く知らない」が30.9%と最も多くなっている。



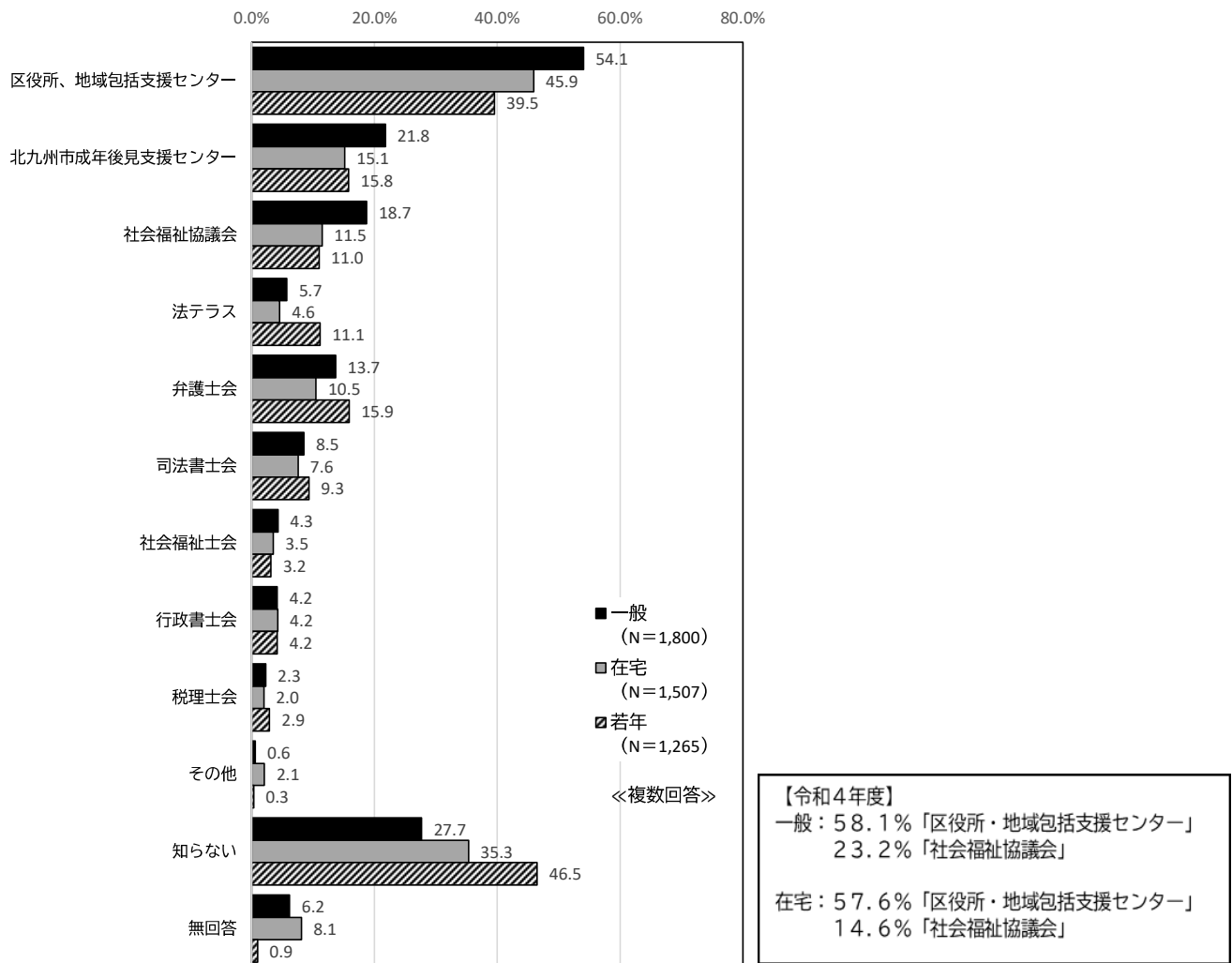
「よく知っている」+「少し知っている」の合計
 【令和4年度】
 一般：47.9% 在宅：35.8%
 【令和7年度】
 一般：48.4% 在宅：36.0%

(3) 成年後見制度の相談窓口の認知度

対象：『一般高齢者』『在宅高齢者』『若年者』

成年後見制度の相談に応じてくれる窓口を知っているか尋ねたところ、一般高齢者、在宅高齢者は「区役所、地域包括支援センター」が最も多くなっている一方で、若年者は「知らない」が最も多くなっている。

	一般高齢者	在宅高齢者	若年者
1位	区役所・地域包括支援センター (54.1%)	区役所・地域包括支援センター (45.9%)	知らない (46.5%)
2位	知らない (27.7%)	知らない (35.3%)	区役所・地域包括支援センター (39.5%)
3位	北九州市成年後見支援センター (21.8%)	北九州市成年後見支援センター (15.1%)	弁護士会 (15.9%)



※令和4年度は選択肢「知らない」はなし
 ※令和4年度は「若年者」への設問はなし

(4) 成年後見制度の利用促進・充実

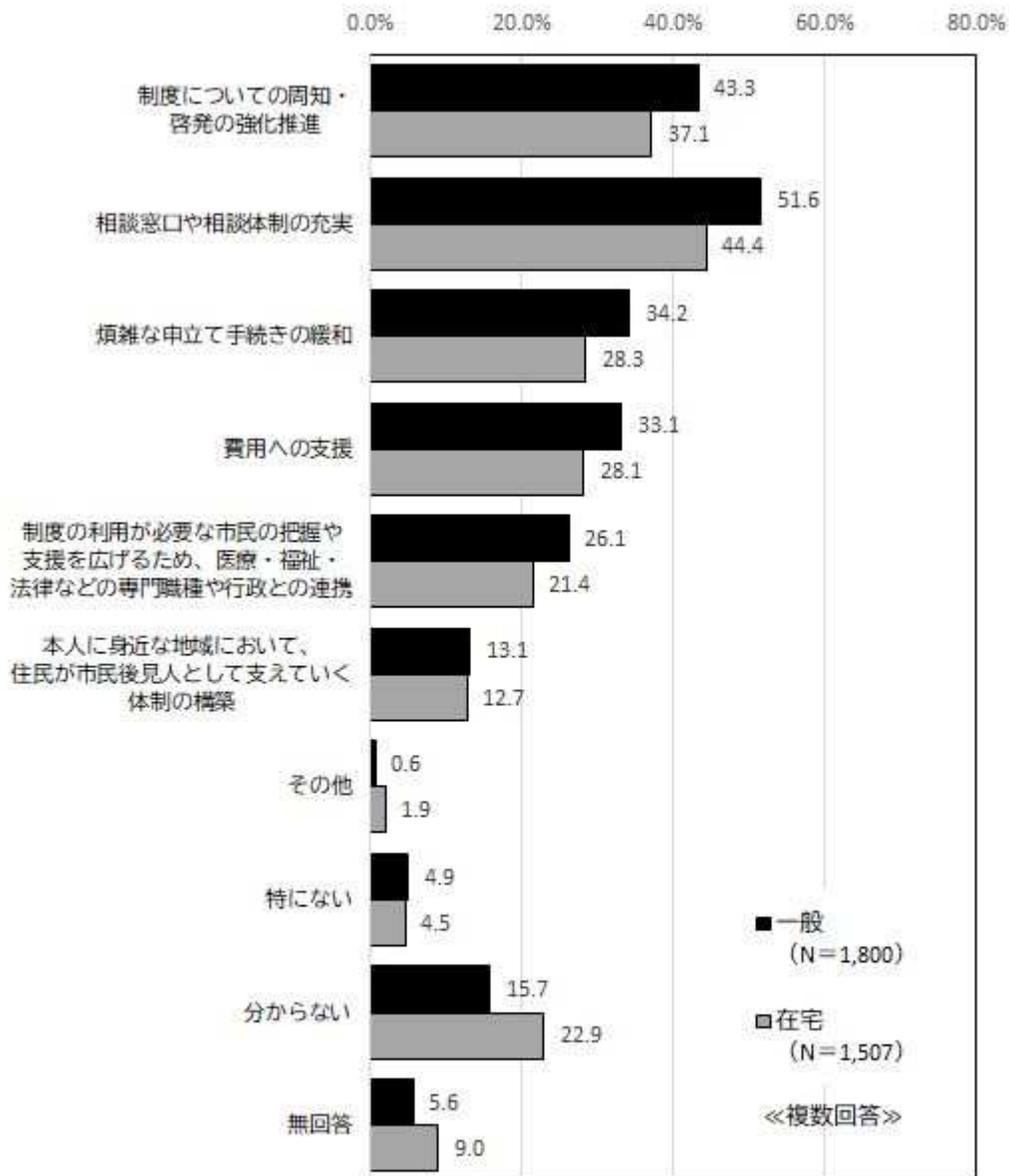
対象：『一般高齢者』『在宅高齢者』

成年後見制度の利用の促進・充実を図るためにどのようなことが必要か尋ねたところ、「相談窓口や相談体制の充実」が最も多く、一般高齢者で 51.6%、在宅高齢者で 44.4%となっている。次いで「制度についての周知・啓発の強化推進」が一般高齢者で 43.3%、在宅高齢者で 37.1%、「煩雑な申立て手続きの緩和」が一般高齢者で 34.2%、在宅高齢者で「28.3%」となっている。

	一般高齢者	在宅高齢者
1位	相談窓口や相談体制の充実 (51.6%)	相談窓口や相談体制の充実 (44.4%)
2位	制度についての周知・啓発の強化推進 (43.3%)	制度についての周知・啓発の強化推進 (37.1%)
3位	煩雑な申立て手続きの緩和 (34.2%)	煩雑な申立て手続きの緩和 (28.3%)

☆「成年後見制度」とは☆

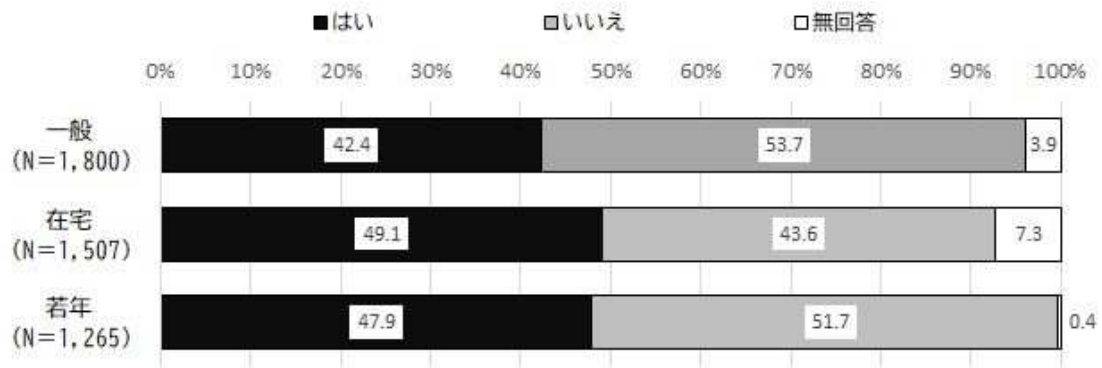
認知症や知的障害などの理由で判断能力が不十分になった場合に、成年後見人等が本人に代わって、財産の管理や介護サービスの契約などを行い、法的に本人を支援する制度。



11. 地域包括支援センター

対象：『一般高齢者』『在宅高齢者』『若年者』

「地域包括支援センター」を知っているか尋ねたところ、「はい」と回答した割合は、一般高齢者で42.4%、在宅高齢者で49.1%、若年者で47.9%となっている。



【令和4年度】
「はい」
一般：43.6% 在宅：52.8% 若年：46.0%